

# 将来の萩の医療を考えるシンポジウム ～中核病院づくりに向けて～を開催しました

9月12日、「将来の萩の医療を考えるシンポジウム」を萩市総合福祉センターで開催しました。市民や医療関係者約140人が参加し、病院経営統合により、医療従事者の確保や病院の経営に成果を上げている山形県酒田市の事例を学び、萩医療圏における中核病院のあり方について理解を深めました。

## ■基調講演

●**演題** 「地域における中核病院が果たす役割～山形県・酒田市病院機構の事例から学ぶ 設立経緯とその後の経過、今後の課題～」

●**講師** 栗谷義樹（地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構理事長）

●**内容** 酒田市での病院経営統合後の医療機能の集約や、地方独立行政法人のメリットを生かした柔軟な運営により、経営改善に成功した経緯と今後の課題について話されました。



## ■パネルディスカッション

●**テーマ** 「中核病院の望ましい姿について」

●**パネリスト** 栗谷義樹、綿貫篤志（萩市医師会長）、米澤文雄（萩市民病院院長）、亀田秀樹（都志見病院院長）

●**コーディネーター** 藤道健二（萩市長）

●**内容** 中核病院で担っていききたいことや、期待することについて、それぞれの立場から意見を交わし、栗谷理事長からアドバイスをもらいました。



## ●主な発言

### 萩市民病院 米澤院長

○萩医療圏にとって救急、小児科、産科は必須。統合するならば、なるべく早く1つの病院にしなければ、二次救急の体制が維持できない。

○人口減少に伴う病床数の削減は避けて通れない問題。しかし、ITなどの医療環境の整備を行い、医療の質の向上を目指したい。

### 都志見病院 亀田院長

○医療従事者の不足や高齢化という危機的な状況であるが、当院の地域がん診療病院や地域包括ケア病床などの機能は今後も必要であり、中核病院でも継続し、充実を図るべき。

○統合し、両病院の機能を補い合うことで、今後更に医療の充実が図られる。

### 医師会 綿貫会長

○中核病院の議論は開かれた場所でじっくりと行い、住民の声に耳を傾けてほしい。

○広い視野を持ち、交渉・調整力のあるリーダーを迎えてほしい。

○両病院の職員の意見を聞き、一体感を醸成してほしい。

○中核病院は急性期に特化し、他の医療機関との連携や役割分担を行ってほしい。

○「地域医療なくして地方創生なし、地域医療なくして地方自治なし」という理念のもと、中核病院づくりを実現してほしい。

### 栗谷理事長

○人口が減少する中、急性期医療は多額の費用と多くの人材が必要で、過疎化の進む地域ほど集約化を急がないと手遅れになる。

○萩医療圏の人口規模を考え、今後持つべき医療機能を整理し、どこかで折り合いをつけなければならない。経営も考えなければ、途中で立ち往生してしまう。

○萩市民病院でもなく都志見病院でもない新たな病院をつくるというコンセプトが必要。

## 【中核病院なんでもトーク】

地域や団体の集まりなどで、中核病院づくりについて説明し、意見を伺う「中核病院なんでもトーク」を行っています。ご要望がありましたら、中核病院形成推進室までお申し込みください。